

皆さん、おはようございます。そして、新年明けましておめでとうございます。12月24日の2学期終業式でお話ししてから、まだ2週間しか経っていませんが、その間に、2019年から2020年に年が改まりました。短い期間でしたが、皆さんは、どう過ごしましたか。そして何を思いましたか。「1年の計は、元旦にあり」といいます。正月の意義は、新しい年になった機会に気持ちを一新して、その年の決意をし、意欲を充実させることにあります。平凡な生活の繰り返しにけじめをつけることは、人間の素晴らしい英知だと思います。

さて、今日は、俳句を紹介します。俳句の世界では、「去年今年」と書いて「こぞことし」と読む季語があり、年を越す瞬間を表すとされています。「こぞことし」が詠みこまれた俳句を二つ紹介しましょう。

まず最初の句は、高浜虚子。

「去年今年貫く棒のごときもの」

この句の解釈は、様々です。

- ・1年の変わり目は、特別なことと思われるが、ただ時間が過ぎるだけのこと。

あたかも1本の太い棒で貫かれているかのように、時の流れの一部に過ぎない。

あるいは、

- ・年が改まっても、生きる意志のようなものが心の中を棒のように貫いている。

何があっても決して退くことのない心、ゆるぎない思いが自分の中を貫いている。

という解釈もあります。それにしても「貫く棒のごときもの」とは、大変力強い表現です。とても76歳の時の句とは思えません。

続いての句は、森澄雄。

「埋み火の生きてつなぎぬ去年今年」

茶道の世界では、年末年始の行事として、その年最後の茶会で使った炭火を、「埋み火」として大切に残し、新年最初の茶会の種火とする習わしがあるそうです。年を越えても、静かに燃え続ける「埋み火」を、命になぞらえて詠んだ句です。

皆さんは、どちらの句が好きですか。昔は、「貫く棒」の力強さにあこがれていましたが、この歳になると「埋み火」のような静かな世界もいいと思います。この1年「貫く棒」のように力強く生きてもいいし、「埋み火」のように燃える思いを内に秘めて生きてもいい。

最後に3年生、いよいよ自己実現の本番の時期を迎えます。不安や悩みがあると思います。それは当たり前のことです。受験生なら、誰もがこの時期、不安や悩みで一杯です。必要以上に気に病むことはありません。皆さんなら、「埋み火」のように静かに燃えて、「貫く棒」のように、最後までやり抜いてくれることと信じています。

B e l i e v e i n y o u r s e l f

ですよ。

という訳で、今日の一曲。アニメ「Baby Steps」第1期のオープニングテーマ「Believe in yourself」。去年も1月8日に、歌いましたが、今年も歌います。

やれるだけやり切ったかなんて自分しか分からない
だから自分に嘘つくな 自分にはズルするな
誰かと自分を比べるよりも 己を誇れる人になりたい
自分を投げ出さず生きた今日を 褒め続けられる日々を送ろう
君にしか分からなくたって楽な道は選ぶな
最後に報われるのは逃げずに居た君自身だから
…Believe in yourself

(作詞：阿部真史)

干支が一巡し、その最初の「子年」を迎えました。この1年が大きな飛躍の年になりますよう、そして、この1年が生徒の皆さん、そして我々教職員、ここにいるすべての人にとっていい年であることを祈念して、私の新年の挨拶を終わります。みんなで、いい年にしましょう。